

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	重文指定記念・大鹿歌舞伎体感伝承活用事業
事業主体 (連絡先)	大鹿歌舞伎保存会 大鹿村教育委員会事務局0265-39-2100
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,728,560 円

事業内容

- 1 用具の新調として、歌舞伎衣装・歌舞伎かつら・小道具番傘を購入した。
- 2 活用事業として、平成30年9月30日、大鹿中学校歌舞伎、平成31年3月10日に小学生出演の歌舞伎教室発表会を行った。平成30年11月3日には講演会を行った。歌舞伎ワークショップは4人の受講生が参加し稽古・成果発表を行った。
- 3 情報発信制作として8月から6ヶ月間高速バスラッピン



【 ワークショップ成果発表 】

【目標・ねらい】

- ①重文大鹿歌舞伎の子どもたちへのさらなる伝承活動
- ②大鹿歌舞伎の地域振興への活用
- ③大鹿歌舞伎の魅力発信

事業効果

- ①用具の新調により歌舞伎衣装、歌舞伎かつら、小道具の番傘が購入でき歌舞伎上演の充実が図られた。
- ②大鹿小中学校への歌舞伎学習の取組は大鹿歌舞伎保存会の全面的な協力により(小学校26h、中学72h)それぞれに堂々として見ごたえのある歌舞伎公演となり、深い感動を与え観客から高い評価を得ることができた。さらに、今年度は春秋の定期公演に大鹿中学生OBが5名出演し大鹿歌舞伎継承の輪がさらに広がりを見せた。

※自己評価【 A 】

【理由】

今年度は特に小中高生への次世代の継承に充実が見られた。ワークショップは5名の応募があり、内4名が参加し成果を発表できた。

今後の取り組み

近年、地域と学校現場での協働による教育の在り方として、信州型コミュニティスクールといった取り組みがクローズアップされているが、実は大鹿小中学校の歌舞伎学習も、大鹿「村の学校」協力隊というコミュニティスクールの一環で活動が展開されている。こうした地域の中に伝わる民俗芸能を子どもたちに教え継承する取り組みは、大鹿村だけではなく各地でもすでに行われているのだが、問題はその後をどうするかである。義務教育を終えた若者たちにどうアプローチしていくか、どのように担い手として醸成していくのか、後継者育成の重要な課題として方策を追求する中で今後も取り組んでまいりたい。

また、3月開催の歌舞伎教室発表会には、前日から来村していた大鹿村ふるさと応援団のお試しツアーの一行9名も観客として参加していたが、このうちの1名はワークショップの受講生であり、安曇野市から7回の稽古に通い当日成果を発表した。このように、歌舞伎を活用した体験ツアー等、歌舞伎をキーワード以上にコアな大鹿村ファンづくり担い手づくりにつながるよう取り組んでまいりたい。